

# 令和6年度社会福祉法人標茶町社会福祉協議会事業報告

## ■基本方針

今、日本の福祉は「地域共生型社会」を目指しています。それは、少子高齢化・人口減少、地域社会の脆弱化等、社会構造の変化の中で、人びとがさまざまな制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をとともに創っていく社会です。

核家族化や担い手不足等により、孤立する人も増える中、今までの支え合いの図式は希薄となり、今となっては他人同士であっても、人と人とのつながりを持てること自体がセーフティネットになる時代を迎えています。つまり、公的サービスや専門職による寄り添う支援と、地域住民同士で気に掛け合うつながり、支え合いの関係性の両輪が求められています。

国会としてのこれまで取り組んできた事業を基に、今後は地域福祉の基盤強化を行い、臨機応変に対応できる地域社会の構築を目指して事業活動を展開します。

上記の基本方針に則り、以下、3つの重点目標に基づく取り組み結果、ならびに各種事業についての報告を行います。

## ■重点目標

令和6年度重点的事業

### 1. 地域福祉の推進

元より町内各地域に、標茶町社協地区部会の組織化が進んでおり、活動助成金を活用いただきながら地区活動に取り組んでいただいています。各地域での地域福祉活動について担当の方にお話を伺い、今後の地域福祉活動をどのように推進していくことができるか研究を進め、次年度につなげていきます。

### 2. ボランティア、成年後見制度他、各種研修事業の実施

成年後見制度について、令和6年度は養成講座ではなく、フォローアップ研修として2日日程で任意後見や自作遺言作成などについて研修を実施しました。また、社会福祉活動者研修交流会の講演として、「わかもの・よそものから始まる標茶のイノベーション」をテーマに、学びを深めることができました。

今後の課題としては、ボランティア活動者の人材が不足しているため、ボランティア活動に対する意識改革や人材の育成が求められています。

### 3. 災害・防災の事業推進

令和6年12月に標茶ライオンズクラブ様と災害ボランティアセンターの支援に関する協定を締結いたしました。また防災から考える地域のまちづくり事業として、今年度は道社協から講師の派遣をいただき、災害ボランティアセンターや防災についての知見を深めました。今後も関係団体と連携しながら、防災事業への取り組みを実施していきます。